

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100644		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム あじさい苑		
所在地	宮崎県東臼杵郡美郷町北郷宇納間170番地		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	

住み慣れた地域で馴染みのある人々が周りにいる。居心地の良い環境である。昔から変わらぬ山や川が全貌に広がり空気も澄んでいる。利用者が山を眺め「子供の頃遠足に行っていた。」と指をさして語る。どれを取ってもほっと安心できる地域である。野菜を育て土に触れ収穫したり、桜餅作り梅漬けなどを季節と共に楽しむ。散歩や日光浴で気分転換を図り、衣類を買いに行き「これは似合う?」とはしゃぎ「日常の喜び」を大切にしている。一人ひとりの暮らしに寄り添い当たり前の生活が出来るようにお手伝いをしている。法人内外の関係事業所や自治体、消防、病院、家族、地域の人々との連携を図り、協力体制も出来ている。そういう環境の中で職員も安心して働くことが出来ている。防疫対策については常に施設や関係機関と情報交換を行い状況に応じて対策を講じている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根差し、行政や地域住民との協力体制のもと、生活が送れるように工夫している。運営推進会議のみならず、必要に応じて連携体制を取れるように検討している様子があった。コロナ感染対策を図りつつも、接触を避けた散歩などを行ったり、受診を家族に依頼するなど、外部との接触を極力さけるよう努めている。ホームの活動について知ってもらうために、定期的に発行している「あじさい苑だより」には写真が多く掲載されており、役場や図書館などに配布を行っている。本人のみならず、家族の高齢化や諸事情への配慮も検討し、必要に応じて情報発信や意見交換を行っている様子も確認できた。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和5年2月1日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理解しやすいように優しい文言になっている。日々振り返ることが出来るように常に目につきやすところに掲示している。年度の初めには全職員で内容を確認している。	毎年度の始めに、見直しの必要性も含めて、理念の確認を行っている。目に付く場所に掲示し、意識付けに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策を講じながら近所へ散歩に出かけ地元の人と挨拶を交わしたり面会者とはガラス越しで面会を行っている。コロナ禍において日常的な交流は出来なくなっている。	理念にも「地域」との関係を掲げており、地元の保育園や掃除ボランティアの受け入れなどを行ってきた。コロナ禍においては、近隣の方々の協力により柿採りの声かけを受け実施できた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「苑だより」を年四回発行し図書館、役場、保育園、包括支援センターに掲示し認知症の方々の普段の暮らしぶりを紹介することで、支援や理解につなげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの感染状況を踏まえ時には書面での助言を頂きサービスの質の向上や職員教育に活かしている。防災訓練は利用者、運営推進委員、職員、消防団と合同で行っている。	行政に加えて、家族代表者、地域住民代表者の参加があり、対面での会議を主に開いている。ホームの事業計画書を提示するなど、活動内容を含めて意見交換を行う機会を設けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	苑便りの発行や運営推進委員会へ二名の出席など、常に情報を発信、交換して連携は取れている。	介護福祉の担当課に加えて、防災の担当課との連携を行っている。実際の連携や避難等について意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の職員研修への参加や施設相談員、施設長の指導を受けて全職員で共通理解し、拘束しないケアに取組み実行している。	ケアの方法などについて、法人内の研修で学び実践に向けて共有している。日中、玄関は開錠し、職員間で言葉かけなど気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修を行い実際の事例などを参考に検証したり、日常の言動にも注意し職員全員で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で説明は受けている。これからも繰り返し学んでいきたい。個々に、必要性があれば関係者と話し合い活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に理解と納得をしてもらえるように、分かりやすく十分な説明を行い安心してもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来苑するたびに要望を聞き情報を提供している。信頼を築き意見を出しやすい雰囲気づくりに努め、共に考え運営に反映させている。	病院受診が家族対応が主であるため、ホームと家族が接する機会も多く意見を聞くことができる。玄関スロープは家族からの要望もあり、設置に至った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務の間や、月一回の職員会を活用したり、検証の必要があれば直ぐに検証を行う。意見や要望は検討、実践を繰り返し反映させていく。	月1回の職員会では、記録をとりまとめており、意見・要望が伝わりやすい状況である。勤務体制などに関する意見も言いやすいとのことであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し、やりがいなど向上心を持って働ける環境を整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、法人内の研修を受け学ぶ機会を推奨している。介護福祉士、介護支援専門員の資格取得に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会や勉強会等でお互いの知識を高め合い情報交換や交流会などを通してネットワークづくりに努めている。活動の中で得たことをサービスの質の向上に取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の発言や行動から何を求めているのかを考える。本人から話してもらえるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何度も家族との面談や電話での話し合いを重ね、信頼関係を築くことで相談しやすい雰囲気を作り、困りごとを話してもらえるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相手の現状をよく把握し、何が必要なのか、本人は何を求めているのかをよく聴き取る。本人の意向に添えるように、そして過剰にならないように話し合いを重ね支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の趣味ややりたい事、出来ることを大切に、可能な限り一緒に行い、励まし時には喜び、共に支え合い家族のような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との共有する時間を多く持つような働きかけをし絆を大切にしている。家族と職員とで一緒に悩み考えながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容室やAコープへ買い物に出かける。定期受診で訪れる町の病院や診療所も馴染みの人達に逢える場所になっている。元気で過ごしていれば出掛ける機会も増えるので体調管理に気を配り支援に努めている。	地元の祭りや買い物での外出、隣のデイサービスを利用されている馴染みの利用者との面会など、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ地域の馴染みの間柄でありお互いに理解し合っている。毎日月の歌を息を合わせて全員で歌う。レクレーションや散歩、花や野菜の手入れなどを通じ話しやすい環境を作り自然と関わりが持てるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これまでに培った人間関係を大切に、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話しを聴き個々の思いに答えられるように努める。時には本人、家族、職員と話しあわずかでも意向に添えないかみんなで検討している。	本人の言葉に気を配り対応している。意向を汲み取り、洋服選びや、塗り絵、編み物などの活動に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族との信頼関係を築きその人の歴史やまつわる話を聴く。その人に関わる人達からの話や関係機関からの情報提供依頼などに努め把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々共に生活し、気づいたことなどを記録して一人ひとりの生活を見出す。心身状態を観察し、職員全員で情報を共有、把握することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会で一人ひとりのモニタリングを行い共通認識の下、方向性を見出している。関係機関の協力もある。また可能な限り家族の意見を聞いて(感染対策の為電話もあり)現状に即した計画作成に活かしている。	日々の記録を基に、担当職員を中心にモニタリングを行う。目標期間ごと及び、心身機能等の変化に応じて職員会にて検討している。1日の流れに沿って記録を行い、本人理解に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「私の一日」「申し送りノート」に日々の様子や実践、結果、気づきや工夫などの記録をする。本人の発した言葉を記録することで情景が解るようにする。また職員間で情報を共有することで実践へ反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況把握に努め、その時々ニーズに応えられるよう、柔軟な支援に心掛けています。多職種との連携を図り、迅速で的確な対応に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	限られた地域資源だからこそ、把握し活用しながら本人の望む暮らしに近づけることが出来る様に支援している。また新しい地域資源の開拓にも取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関に定期的を受診している。本人の現在の状況をまとめ家族から主治医に渡している。状況によっては職員が同行し本人・家族・医師・介護職との共通理解が出来るようにしている。	受診は家族対応で依頼し、主治医には必要な情報を文書にて提供している。不整脈等、注意が必要な入居者対応については、医師を交えて連携し、対応方法を検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の「いつもと違う」を見逃さず法人内の看護師、歯科衛生士に相談し、根拠に基づいて対応し状況に応じて必要であれば適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から病院関係者とのより良い関係づくりに努めている。入院した際は早急に情報提供し実際の状況を確認し病院側からの情報も収集する。早期に退院出来るように連携を取りながら相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について家族と早い段階で話し合っている。苑での支援できる能力を説明している。主治医や家族、職員との連携をとり「本人の望む幸せ」に近づけることが出来るように取り組んでいる。	ホームでできる事、できないことを十分に説明し、状況に応じて対応している。ホームに看護師は不在であるため、隣接する同法人の特別養護老人ホームの看護師と連携を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会の時に救急時マニュアルの確認と訓練を行っている。今後も繰り返し訓練や勉強会を計画していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度防災訓練を行っている。年に一度役場の消防本部と運営推進委員会と連携で通報、避難、誘導、初期消火の訓練を行っている。	地域や隣接する同法人の別事業所と協力している。また行政や地域を交えて避難等について検討している。連絡方法や内容については、見やすいように掲示し、体制を整えていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりが個人として尊重され、プライバシーの保護や尊厳を損ねない、声掛けや対応に心掛けている。	声かけに注意を払い、それぞれが自分のペースで生活できるように対応している。地元地域の方が多く、入居者ごとの希望に応じて、馴染んでいる呼び名を使用することもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中で利用者が話しやすい雰囲気作りに努める。本人の思いや希望をゆっくりと聴く姿勢を作る。その話の中で自己決定が出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切にし本人の意向を取り入れた支援を行っている。個々の希望に沿った過ごし方を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの好みのおしゃれが出来るように職員と一緒に選んだり楽しんでもらっている。美容室へ出かけたリ化粧品や洋服を購入したりと支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	プランターで育てた野菜を食事に提供する。利用者は梅干しをつけたリ、桜餅やいなり寿司を自分で作って食べたり、茶碗洗いを手伝う。全て利用者と職員と一緒に作業することで会話が弾み利用者の喜びにもつながる。	茶碗洗い、野菜の下処理や梅干し作り等を一緒に行う。献立は栄養士が立てるが、入居者の希望も取り入れ、楽しむことができるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立でバランスのとれた、また季節感のある食事となっている。水分摂取量、嚥下状態など栄養士に相談し共に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合った声掛けをし、それぞれに合った口腔ケア、歯磨きの支援を行っている。年に一度施設内の歯科衛生士による歯科検診を行っている。歯ブラシの日光消毒に努め洗浄剤も活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合った声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。夜間はポータブルトイレを使い自立を促している。	全体の排泄チェックを個別の記録にも反映させており、見やすいように工夫されている。必要に応じて計画にも位置付け、自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄リズムを把握する。百歳体操を取り入れ水分補給も行き、スムーズな排便につながるよう支援している。場合によっては主治医や栄養士にも相談し指示をもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者それぞれの体調や、外出予定を考慮しながら支援している。ゆず湯を取り入れ季節や風情を楽しんでもらっている。	週に3回を基本として入浴できるようにしている。必要に応じて、予定外でも入浴支援を行う。拒否が強い方がいたときは、医師や家族とも相談しチームで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが自由に休息できるように支援している。寝具の日光消毒や日中の活動を充実させたり、入浴で温まったりすることで夜には質の良い眠りを目指している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を綴り個人の服薬状況が直ぐに確認できる。与薬時は名前の読み上げ確認、顔を見て確認、職員二人で確認を行うなど、常に意識した確認を行い事故防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自主的に洗濯物たたみや草取りを行っている。それぞれの好きな事や、やりたい事を楽しんでもらっている。利用者全員でレクリエーションに参加することで笑いや会話が弾み、気分転換につながっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	田んぼや山に囲まれているので天気の良い日は努めて散歩に出掛けるように支援している。コロナ禍にある為人混みは避けている。買い物、家族との外食、墓参り等家族の協力や地域の支援をもらいながら行っている。感染防止対策は欠かせない。	季節や天候に応じて、近隣を散歩する機会を設けてきた。田んぼや山があり、感染対策をとりながらの外出が行いやすい環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持つことはトラブルの原因になったりするので小遣い帳を作成し預かり保管している。外出時や買い物がある時はその都度渡して買い物を自由に楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状を家族に宛てたり、電話をかけたい時は希望に沿うように支援している。「苑だより」が縁で便りが来ることもある。携帯電話を使用している利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じたり、楽しみや喜びにつなげられるように野山の草花を飾っている。また壁飾りを一緒に作成し空間を作り上げている。共有の空間は常に整理整頓に努め、工夫して使いやすさにも配慮している。	共有空間は見通しが良く、明るさや温度、換気等に配慮されていた。共同で制作した壁飾りや広報誌が貼られ、季節も感じられる。ソファ等もあり、思い思いの場所で過ごせる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが好きな場所で気兼ねなく書き物、読書、編み物などを自由に楽しめるようにテーブルやソファを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人希望によりTVや愛着のある家具などを持ち込み、好みの部屋作りをしている。植物を育てたり、家族の思い出の写真やメッセージカードなどもあり、それぞれが思い思いに工夫している。	寝具類と収納が備え付けであり、使い慣れた物品を持ち込むことができる。居室で植物を育てたり、写真を掲示したりし、入居者ごとの希望に応じて対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれが分かりやすいように居室やトイレに目印を付けている。混乱なく自立した生活が出来るように工夫している。		